

第4次丹波市男女共同参画計画策定市民団体ヒアリング

資料5

- 【目的】 本調査は、地域で男女共同参画推進に取り組んでいる市民団体の方から男女共同参画に関する課題や、丹波市に期待することなどの意見を直接把握し、丹波市男女共同参画計画策定の基礎調査とすることを目的として、ヒアリング調査を実施しました。
- 【実施方法】 直接、対面でヒアリングを実施しました。
- 【日時】 令和4年1月25日（火）
- 【調査対象】 柏原男女共同参画推進会
- 【テーマ】 ①団体について ②地域づくりについて ③女性活躍について ④市の施策について

①団体について

- 自主協議会の役員をしていた者が中心になり立ち上げた。
- 総勢26名（17自治会で20名、委員6名）メンバーの比率は男女半々。
- 取組内容：啓発事業としての広報の発行、出前講座の「でかけるウィズ・ユー」、啓発事業として「用語集」の作成・意見交換等。

②地域づくりについて

現状・課題

- ・ 役員の交代が課題。自分の役が終わればおしまいではなく、次の役になった人に伝えていくことが必要。
- ・ 新しい入居者が多い地域では、次の役員を選ぶ際にも顔もわからないので、知っている人に頼みがち。
- ・ アパートが多く、だれが住んでいるのかわからない。周囲の人でも知らない場合が多い。・ 孤独死など独居の人の問題。
- ・ 車の免許をもっていない人など、移動手段の確保が必要。

方向性

- ・ 自治会長や男女共同参画推進員の勉強会の開催
- ・ 男女共同参画センターで男女共同参画について勉強や相談ができ、気軽に活用できるということを広く伝える。
- ・ 学ぶためのきっかけづくりの情報提供
- ・ 人と人とのつながりが出来るような制度。

第4次丹波市男女共同参画計画策定市民団体ヒアリング

③女性活躍について

現状・課題

- ・自治会にはまだ「女性も役をやる」という意識が少ない。
- ・イクメンという言葉も一般的になったし、育児休業制度等も充実してきているが取得率に課題がある。
- ・専業主婦として暮らしてきた人は、働いている人よりも立場が低いという意識を感じることが多い
- ・家事することが嫌でなければすればよいが、他の人にその価値観を押し付けてはいけない。

方向性

- ・地域で男女共同参画を進める上では、男性の意識も変えなければいけない。
- ・家庭内での男女共同参画とも並行して進めていく
- ・クォーター制等を含めた環境や制度を変えていく部分だけでなく、女性自身の意識を変えていく部分も重要。
- ・固定的な性別役割分担意識が根底にあるので、周知啓発をして改善する。

④市の施策について

現状・課題

- ・計画づくりでは目標がはっきりしないとうまく進まない、数値目標を設定しているが、だれがそれを到達するように進めるのかという具体策が乏しい。
- ・組織が縦割りで、横との連携を取ることが難しい。
- ・男女共同参画センターの認知度が低い。

方向性

- ・どこの課が主に取り組むのか、住民がすべきことは何か、事業所がすべきことは何かという具体策を明記。
- ・九州でされた男女共同参画推進都市宣言を丹波市でも実施するなど、取組が目に見える工夫が必要。
- ・市役所を横断して男女共同参画を推進できる部署をつくり、全庁的に取組を広げる。
- ・SDGsの取組の1つとして、ジェンダー等の項目について市から指針を投げかける。

第4次丹波市男女共同参画計画策定市民団体ヒアリング

- 【目的】本調査は、地域で男女共同参画推進に取り組んでいる市民団体の方から男女共同参画に関する課題や、丹波市に期待することなどの意見を直接把握し、丹波市男女共同参画計画策定の基礎調査とすることを目的として、ヒアリング調査を実施しました。
- 【実施方法】直接、対面でヒアリングを実施しました。
- 【日時】令和4年1月28日（金）
- 【調査対象】吉見地区男女共同参画推進連絡会
- 【テーマ】①団体について ②地域づくりについて ③女性活躍について ④市の施策について

①団体について

- 吉見地区では以前から男女共同参画を推進する会があり、丹波市になり男女共同参画の取組が提案された際に吉見地区男女共同参画推進連絡会を立ち上げた。
- 近年コロナで自粛しているが、男女共同参画講演会や、地区の運動会での演技を実施。住民の意識が変われば地域も変わり、風通しのよい地域につながることを呼びかけている。
- 吉見地区にある6自治会とも役員に女性を登用している。

②地域づくりについて

現状・課題

- ・若い時に地域に役員を経験し、地域活動にかかわる仕組みを作っている。
- ・自治会の代表者の方に、防災研修会を実施している。
- ・女性の細やかな意見を取り入れた、誰もが住みやすい地域づくりに取り組んできたことにより、社会的弱者に視点を置いた防災を考えられる地域になりつつある。女性も地域の安全を守るために初期消火の仕方を訓練していくことを継続している。
- ・女性用トイレの整備（梶原自治会）

方向性

- ・若いときから村で活動してつながりができていると、活気ある地域になりその様子を子どもたちも見て育つ。
- ・運動会等の催しは準備が大変だが、横のつながりを保つためには必要ではないか。
- ・防災活動では、救護班や炊き出し班にも男性を配置するなど、性別にとらわれず仕事内容により配置が必要。

第4次丹波市男女共同参画計画策定市民団体ヒアリング

③女性活躍について

現状・課題

- ・現在の役員は2年で交代することが多い。役員をうまく回していけるとよいが、難しい状況。
- ・人気の2年でおしまいではなく、長期的に続けていければ、広がりのある地域になれると思うので、そのつなぎ方が課題。
- ・公民館委員を最初から男女半数ずつにしたため、意見が言いやすい組織になっている。
- ・地域活動（組長業務）のマニュアルを作成した。

方向性

- ・公民館活動に女性を委員として選出し、多様な意見を増やすことを大切にしたい。
- ・経験のある方からアドバイスを受けながら進めることができれば、会議や企画のやり方を理解し役員として育ていくことができる。経験者の受入れる姿勢が重要。
- ・地域活動を細分化・マニュアル化して「だれがやってもできる」とすることで、女性に限らず誰でも取り組めるようする。

④市の施策について

現状・課題

- ・男女共同参画センターで開催される講座に興味があっても、遠いため参加が難しい住民もいる。
- ・地域の活動として男女共同参画の講演会を企画したいが、なかなか講師が見つからない。

方向性

- ・男女共同参画の講演のため、市から講師を出前してくる仕組みを整えてほしい。
- ・丹波市版講師一覧をつくり、身近な講座を開催したい。